

SOAI familiar

相愛大学 www.soai.ac.jp
〒559-0033 大阪市住之江区南港中4丁目4-1 TEL.06-6612-5900
相愛高等学校・相愛中学校 www.soai.ed.jp
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-23 TEL.06-6262-0621

SOAI familiar 2010 No. 18 相愛ファミリア

第18号・2010平成22年12月16日発行 ●発行元：学校法人相愛学園学園広報誌編集委員会 ●http://www.soai.jp/

子どもたちと向き合おう

保育士・相愛大学人間発達学部卒業
尾嶋勇佑さん



記念シンポジウム

- 4 「生と死を、今考える」
- 6 「人文科学の挑戦」
- 7 本町講堂で「相愛奇境」

◆相愛学園イベントガイド◆ (2011年1月～2011年3月)

- 成人の集い
1月8日(土)
本学南港ホール
本学在学学生対象
- 親鸞聖人御正忌法要／
学園関係者物故者追悼法要
1月14日(金)
本学本町学舎講堂
本学関係者対象
- 市民仏教講座
1月22日(土)13:30～15:00
本学学生厚生館S307
講師：未定
講師：小野真(本学准教授)
受講無料
- 古楽器・アンサンブル演奏会
1月25日(火)
本学南港ホール
- 北御堂相愛コンサート
1月27日(木)12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)本堂
入場無料
出演：田中佑子(ヴァイオリン)
- 人間発達学部公開講座
(メタボダイエット教室)
1月29日(土)14:00～16:30
閉講式
本学南港学舎
申込終了
問い合わせ：教務課
- 高3室内楽演奏会
1月31日(月)15:40～
本学本町学舎講堂
入場無料
- 相愛高等学校乙女コンサート
高校1年生の部
2月5日(土)13:30～
本学本町学舎講堂
入場無料
出演：本校音楽科1年生
- 市民仏教講座
2月12日(土)13:30～15:00
本学学生厚生館S307
講師：未定
講師：北崎契縁(本学教授)
受講無料
- 相愛大学音楽専攻科修了演奏会
2月19日(土)15:00/18:30
ザ・フェニックスホール
入場無料
出演：本学音楽専攻科修了生
- 相愛高等学校卒業奉告本山参拝
2月22日(火)
西本願寺
本校高校3年生対象
- 帰敬式
2月22日(火)
西本願寺
- 北御堂相愛コンサート
2月24日(木)12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)本堂
入場無料
出演：和田真理子(ピアノ)

- 相愛高等学校卒業式
2月26日(土)
本学本町学舎講堂
本校高校3年生対象
- 相愛音楽教室スプリングコンサート
2月27日(日)
本学本町学舎講堂
入場無料
出演：音楽教室生
- 第55回相愛オーケストラ
定期演奏会
3月1日(火)18:30～
いずみホール
入場料2,000円
出演：梅田俊明・酒井睦雄(指揮)、
相愛オーケストラ
- 相愛ウィンドオーケストラ
第4回ポップスコンサート
3月6日(日)14:00～
本学南港ホール
入場無料
指揮：若林義人
出演：相愛ウィンドオーケストラ
- 第19回オペラ試演会
「フィガロの結婚」
3月12日(土)13:00～
本学南港ホール
入場無料
指揮：船曳圭一郎
出演：相愛フィガロオーケストラ
- 第11回相愛オーケストラC組D組
発表演奏会
3月12日(土)18:45～
本学本町学舎講堂

- 入場無料
- 相愛大学卒業式
3月18日(金)
本学南港ホール
本学大学生対象
- 相愛中学校卒業奉告参拝
3月18日(金)
本願寺津村別院
本校中学3年生対象
- 相愛中学校卒業式
3月19日(土)
本学本町学舎講堂
本校中学3年生対象
- 相愛高等学校音楽科卒業演奏会
3月19日(土)13:30～
本学本町学舎講堂
入場無料
出演：本校音楽科卒業生選抜者
- 相愛大学卒業演奏会
3月21日(月)13:30～
本学南港ホール
入場無料
出演：音楽学部卒業生
- 北御堂相愛コンサート
3月25日(金)12:25～12:45
本願寺津村別院(北御堂)本堂
入場無料
出演：未定(創作)
- 相愛大学卒業演奏会
3月25日(金)18:00～
いずみホール
入場無料
出演：音楽学部卒業生

2011年度 入試日程

相愛大学入試日程				
学部	種別	出願受付期間 (音楽・人文・人間発達共、消印 有効・最終日は現金受付可)	試験日	合否発表
音楽	一般A入試	1月7日(金)～1月20日(木)	2月1日(火)・2月2日(水)※1	2月8日(火)
	一般編入学後期試験		2月1日(火)	
	音楽専攻科入試			
	社会人特別入試※2		2月2日(水)	
	一般B入試		3月9日(水)	
	一般C入試		3月24日(木)	
人文	一般A入試 (本学会場)※3 (地方入試会場)	1月11日(火)～1月25日(火)	1月29日(土)・1月30日(日)	2月3日(木)
	寺院特別推薦後期入試		1月29日(土)	
	社会人特別入試			
	一般編入学後期試験			
	センター試験利用A入試		1月20日(木)～2月3日(木)	
	一般B入試		2月19日(土)	
	センター試験利用B入試		2月1日(火)～2月15日(火)	
	一般C入試		3月17日(木)	
	センター試験利用C入試		2月25日(金)～3月11日(金)	
	一般A入試 (本学会場)※3 (地方入試会場)		1月29日(土)・1月30日(日)	
人間発達	一般A入試 (本学会場)※3 (地方入試会場)	1月11日(火)～1月25日(火)	1月29日(土)	2月3日(木)
	社会人特別入試		1月29日(土)	
	一般編入学試験			
	センター試験利用A入試		1月20日(木)～2月3日(木)	
	一般B入試		2月19日(土)	
	ファミリー後期入試		2月1日(火)～2月15日(火)	
	センター試験利用B入試		2月1日(火)～2月15日(火)	
	一般C入試		3月17日(木)	
センター試験利用C入試	2月25日(金)～3月11日(金)			

相愛高等学校入試日程			
	1次入試	15次入試	
普通科	受付 窓口受付	予定あり	
	出願期間 1月24日(月)～2月3日(木)		
	試験日 2月10日(木)		
音楽科	受付 窓口受付		
	出願期間 1月24日(月)～2月3日(木)		
	試験日 2月10日(木)、2月11日(金)		

●お問い合わせ先 高中入試広報部
電話 06-6262-0621 FAX 06-6262-0534

※1 音楽マネジメント学科の試験日は2月2日のみ
※2 社会人特別入試は音楽マネジメント学科のみ
※3 本学会場の試験日はどちらか1日を選択。

●お問い合わせ先
相愛大学 入試課
電話 06-6612-5900 FAX 06-6612-6090

○編集後記

今年も押し寄せました。いつの間にか流れる時の速さには驚くばかりです。しばしの秋を経て、すでに木々は葉を落としつつ、冬の身支度をととのえています。冬に生まれたせいかこの季節が嫌いではありません。詩人、

高村光太郎は次のように詠っています。「冬が来る。寒い、鋭い、強い、透明な冬が来る」また「冬が来る、冬が来る。魂をとどろかして、あの強い、鋭い、力の権化の冬が来る」とも。冬の持つ清冽で一種すさまじいエネルギーは、万物がその厳しさに懸命に耐える姿を思

い起こさせます。しかしこの時だからこそ、人々はお互いが身を寄せ合って心をあたためることの幸せを実感するのだと思います。おかげさまでファミリア18号の発刊にこぎつけることが出来ました。皆さま、お健やかでよいお年をお迎え下さい。(高藤)



障がいを持つ子どもたちの
支援者でありたい

どこでも全力 笑顔で溶け込み

社会で活躍する
卒業生

尾嶋勇佑さん(保育士・相愛大学人間発達学部卒業)

「障がいを持つ子どもたちの支援者でありたい」。尾嶋勇佑さん(23)はそんな想いを抱きながら、「社会福祉法人 大阪西本願寺常照園」(大阪府吹田市)に勤務しています。高校時代は野球に情熱を燃やした彼の「進路」を決定づけたのが相愛大学。そしていま、子どもたちと真正面から向き合う充実した日々をおくっています。

今年3月に大学を卒業し、常照園に勤めて1年も経っていない尾嶋さんですが、子どもたちから「オッジー」と呼ばれて親しまれています。「言葉が伝わりづらい子もいて、どう思っているのかを読み取るのが難しいこともあります。そうしたなかで、信頼関係を作っていかなければいけないのが難しいですね」と話します。

障がいのある3歳から18歳までの子どもを対象に、朝から夕食後までの希望の時間に一緒に遊んだり食事をしたりしながら関わっていく「日中一時支援」。家庭と同じように生活しながら寝泊まりする「短期入所」。彼はその二つの仕事を仲間たちと担っています。

「将来の自分の姿」を描き始めたのは中学2年生の時でした。「学校の職場体験学習として保育園に行ったことと、児童養護施設を取り上げたテレビのドキュメンタリー番組を見たのがきっかけでした。特に、親と離れて暮らしている子どもがいる現状をテレビ番組で知って驚きました。親がいない寂しさを職員にぶつける子どもたちとそれを受け止める職員のやりとりで感銘を受けて、やりがいのある仕事だと思えるようになりました。

滋賀県立八幡商業高校に通っていた時はその夢をひたすら横に置いて、野球一筋。在校中にチームは選抜大会で甲子園へ2年連続出場しました。2年生の時には応援団副団長としてスタンドで心を込めて太鼓を叩き、同校は「応援団賞優秀賞」を受賞。3年では念願のベンチ入りを果

たしましたが、試合に出る機会はありませんでした。それでも「ベンチから大声で応援していました」と尾嶋さんは、どんな「ポジション」でも全力を出し切りました。そして次の目標を「保育士になること」と決め、野球部顧問や担任教師の薦めもあって相愛大学に入学しました。

実家の滋賀県から片道2時間をかけて通学、夜はアルバイトをしながらの4年間。「自分でもよく勉強したと思います」と学生時代を振り返ります。そして、保育実習に訪れた常照園に縁があって就職しました。保育士の資格を全面的に生かせる職場ではありませんが、「大学で児童福祉や児童心理を学んだのが役立っています。相談に乗っていただき、いまの仕事に導いて下さった先生方に感謝しています」と話します。

自分が関わることで、子どもたちがうれしそうな表情になるのが最大の喜び。「学生時代よりも我慢強くなったし、責任感も持つようになったようで、子どもと一緒に自分も成長できる仕事だと思っています」と言葉に力がこもります。大学の後輩たちへのメッセージは「自分に自信を持つことが大事。それに、思いっきり遊ばないと働けないと思いますよ(笑い)」。休みの日には高校時代の仲間と草野球チームで汗を流し、サーフィンやスケートボードを楽しむというスポーツマン。さわやかな笑顔で、子どもたちと職場にすっかり溶け込んでいます。

(取材協力・社会福祉法人 大阪西本願寺常照園)





相愛大学×府立急性期・総合医療センター 連携シンポジウム

相愛大学は、「医療・教育・健康・福祉などに関わる地域の課題に対応して、心身共に豊かで活力のある地域社会の形成・発展に寄与すること」を目的に大阪府立急性期・総合医療センターと連携。その事業としてシンポジウム「生と死を、今考へる—がん医療とスピリチュアルケア」が11月20日、大阪・住吉区の同センターで開催され、約200人の参加者が基調講演やパネルディスカッションに聞き入りしました。

生と死を 今どうとらえるか

—医療と宗教からのアプローチ

相愛大学学生による弦楽四重奏団「ROIK Quartet」の記念コンサートに続いて、萩原俊男・府立急性期・総合医療センター院長が「現代の医学では、がんの診療にはまだ限界があります。そんななかで、患者だけでなく家族や周囲の人も納得する医療がよりいっそう大切になっています。このシンポジウムが生と死を考える一助になれば喜びとするところです」と開会のあいさつをしました。

続く基調講演は2題で、同センターの田中康博診療局長が「がん治療最前線と緩和ケア、ターミナルケアの諸問題」、相愛大学文学部の積徹宗教授(浄土真宗本願寺派如来寺住職)が「スピリチュアルケアの可能性」。田中診療局長は「平成21年度にがんて亡くなった日本人のがんの種類は胃、肺、肝臓、大腸、乳腺の順に多い。治療法は切除、薬物療法、放射線療法があって、これに免疫療法や化学療法などをそれぞれの患者さんにあわせてどういうふうな順番で、どう組み合わせるかを考えていきます」と医療の現状を解説しました。

積教授は、施設に宗教ケアを取り入れている韓国のソウル大学病院とアサン高齢者病院や、ビハラー病棟(仏教版ホスピス)を持つ新潟県長岡市の長岡西病院を、スライドを交えて紹介。そして「筋萎縮性側索硬化症(ALS)で入院している患者が『誰かと繋がっていると実感している時に、明日生きようと思う』と話したのが印象に残っていて、他人とつながり『共振、することが大切だと思います。チーム医療にはチームA・B・Cという考え方があって、Aは医者、看護師など医療関係が取り扱う領域。Bはスピリチュアルケアなど主観的な問題に関わる人たち。Cは地域とか福祉、NPOといった領域。これらがうまく連携することが必要だと思っています」と語りました。

パネルディスカッションのテーマは「がん医療とこころのケア」。基調講演を行った2人とパネラー3人が、コーディネーターの進行のもと、それぞれの立場で意見を述べました。

この中で、府立急性期・総合医療センターの緩和ケアチーム長も務める吉田洋・小見



打本未来氏



秋田光彦氏



大谷邦郎氏

外科部長は「センターでは医師、看護師、薬剤師、理学療法士らとチームを組み1年に120人ほどの患者と関わっています。私は医師なので治療が本筋ですが、ときには

患者さんのこれまでの人生を聞くこともあります。治療がうまく行かなかった場合には『役に立つことができなかった』と、医療側にスピリチュアルペイン(終末期患者の人生の意味や罪悪感、死への恐れなど死生観に対する悩みに伴う苦痛)が出てくる場合さえあります」と話しました。浄土宗大蓮寺住職で應典院の秋田光彦代表(パドマ幼稚園園長、12月から相愛大学文学部客員教授就任)は「患者が誰かに何かをしてもらう『ケア』ではなく、自分が主体的にする『ワーク』と言ったほうがいいのではないのでしょうか」と提言。「同じ関心や共通意識を持っている人が集まるコミュニティーを作ることが大事で、そのことで『自分はひとりぼっちではない。同じような境遇、思いを持つ人が側にいる』という心のケアになると思っています」と、患者に寄り添うことが大事と指摘しました。

愛染橋病院の打本未来チャプレン(来年4月に相愛大学仏教文化学科講師就任予定)は「多くの患者は、これまでどんな人生を歩んできたのかという『ライフレビュー』を話されます。これまで困難があってもその人なりの解決方法があったわけですから、その人なりの死との向かい合い方を探すお手



伝いをしようと思っています」と、病院で働く聖職者の役割を紹介。「『自分はこういう最期を迎える』と選べる社会になればいいと思っています」と、社会の変化に期待を表しました。コーディネーターの大谷邦郎・毎日放送編成局宣伝部長(元ラジオ報道部長)は「死生観という言葉が表しているように、まず死があって生。改めて死というものを考えないといけないと感じました」と、認識を新たにしていました。

最後に相愛大学の金児暁嗣学長が「今日のお話を聞いて、死の問題が転換期にあるのだなと思いました。また、日ごろからスピリチュアルな要素というものを考えていくこと、コミュニティーの大切さも感じました。これからも大阪府立急性期・総合医療センターといろいろな企画で連携していきたいと思っています」とあいさつしました。約3時間半に及ぶシンポジウムは、集まった人すべてが死と生というものを考える貴重な時間になりました。

府立急性期・総合医療センターとコラボ 学生参加し「糖尿病予防セミナー」



相愛大学と府立急性期・総合医療センターとの初コラボレーション「糖尿病予防セミナー」が11月6日、開催されました。相愛大学の学生が考えた体験学習コーナーでは、食育SATシステムによる食事診断、体脂肪測定、糖尿病を予防するレシピ集配布、クイズラリーなどを行いました。セミナーに先立ち、「糖尿病予防プロジェクト」を立ち上げ、レシピ集、パンフレット、パネル、クイズ作成に取り組みました。来場者の方より大変好評を得、来年度も実施予定です。



林美那さん
発達栄養学科4回生



富菜華菜美さん
発達栄養学科3回生



山本裕美さん
発達栄養学科2回生

私は、食育SATシステムの結果について説明をしました。勉強して、どのように説明するかは理解していたのですが、いざ本番になると、どういふ風に話したらよいかかわからず戸惑いました。とにかく大切なことをきちんと説明しようと自分なりに言葉をつないで説明しました。私のごこちない話しぶりでもいやな顔をせず聞いてくださっていると感じ、とてもうれしく思いました。

今回の糖尿病プロジェクトで学んだことはとてもよい経験になりました。病気という自分には無関係のように思いますが、もしそれが自分の家族だったらと思い、一生懸命糖尿病について勉強しました。当日、私はクイズラリーの答え合わせを担当しました。事前に勉強していたことでも、来ていただいた方から質問されるとすぐに答えられず、説明することの難しさを知りました。

レシピ集の試作、ポスター作りに参加でき、大変だったけど糖尿病についてとても勉強になりました。当日は食育SATシステムを担当しました。結果の説明は4回生の方がされていました。私ももっと勉強して説明できるようになりたいと思いました。



左から司会の山本学部長、パネリストの中沢氏、内田氏、釈教授

本幸男教授です。この企画には収容可能人数の3倍近い応募があり、当日の会場は聴衆で埋めつくされました。

セッションは、金児暁嗣学長による「本学は、外に向かって行動する人文科学をめざしています」という挨拶から始まりました。その後、山本学部長に続いて登壇したのは、内田樹氏(神戸女学院大学教授)と中沢新一氏(多摩美術大学教授)、そして釈徹宗氏(相愛大学教授)の3名です。

アート・文化・人類学をつなぎながら独創的な地平を切り開く異能の人である中沢氏は、人文学部の姿勢を「ドンキホーテ」と評しました。巨大な存在に対して無謀な挑戦であるというわけです。でもこれは中沢氏独特のエネルギーだったようで、「人文科学こそ領域と領域を結ぶ役割を担っているものであり、そのことをよく理解している相愛大学人文学部の取り組みを高く評価したい」との発言がありました。

一方、内田氏は「学び」は、「学ぶことの有用性や意味をあらかじめわかってから学び始める」というようなかたちでは始まらない。それは商品購入のスキームである」と語る現代におけるオピニオンリーダーの一人です。内田氏は、セッションの冒頭「建学の初志を貫こうとするのは、まことに正しい選択だと思います」と述べました。

釈教授も交えたトークは、「人文科学の再考」から「文化」や「学び」、「大阪人の特性」に至るまで、幅広い話題の応酬となりました。これからの社会のあり方や人間のあり方、そして新学科への期待が提示されたひとときでした。

「人のあり方」問いかけ

仏教文化学科・文化交流学科 開設記念シンポジウム

現代社会においては、すべての者が「消費者体質」になっているという大きな潮流があります。消費者は、すべてを専門家に丸投げして、コンテンツのバックを購入します。そして消費者は対価と等しい満足いくサービスを受けて当然と考えており、不満足であればクレームの声をあげます。そして、今や、この図式が教育の場にまで蔓

延しているのではないのでしょうか。そのような中、相愛大学人文学部では、建学の精神に基づいて、現代における人文科学の重要性を提起しています。新学科構築も、その取り組みの表れです。また、9月25日には、「人文科学の挑戦」と銘打ったトークセッションも開催されました。コーディネーターは、相愛大学人文学部長・山

以前から、中央教育審議会では「宗教教育を実践すべきである」との答申が何度も提出されました。その理由として、「宗教体系がもつ知恵に学ぶ」「カルト宗教に取り込まれないように主流宗教の知識を学ぶべき」「グローバル化が進む中で、他者や異文化の背景にある宗教を理解することが重要」などが挙げられています。もちろん、公立の学校でも宗教教育の必要性があるというわけです。

ところが、宗教教育は必要であるものの、それを教えることができる教員はなかなかいません。なにしろ、先生方はこれまで宗教というものを学ぶ機会などなかったのですから。実は日本ほど宗教を学ぶ

「宗教文化士」の資格に挑戦しよう!

カリキュラムがない国はめずらしいのです。そんなわけで、実際の現場では対応できないのが現実です。そんな中、「宗教文化士」という認定資格が誕生することとなりました。「世界の主要宗教の基本的な事実について一定の知識を持っており、現代人が直面する諸問題における宗教の役割について公共の場で通用する見方ができる」のが宗教文化士さんです。現在、宗教文化士を受験するために必要な単位取得ができる大学は少数です。そして、相愛大学人文学部仏教文化学科では必要単位が取得できます。みなさん、ぜひ宗教文化士に挑戦してください。



桂春之輔氏の「豆狸」

寄席の仕掛人は相愛大学の金児暁嗣学長。前任の大阪市立大学学長時代にも、上方落語協会の桂春團治師匠に直接依頼し、公開授業を実現させました。相愛寄席を来秋から定期的に開催し、「数少ない大阪市内にある大学として、大阪の庶民が作り上げてきた文化を若い人に伝えたい」と、学生や市民に広く開放する構想を練っています。

学び×文化・芸能のフュージョン

寄席に先立ち、人文学部の釈徹宗教授が「仏教と落語と相愛大学」と題し講演しました。「講演+寄席」という、相愛オリジナルスタイルです。盆踊りのルーツは、踊りながら念仏を唱える「をどり念仏」であり、さらに、お寺さんは寺の修復で寄付を集めるために演劇を催しはじめたといえます。このような宗教と芸能の密接なかかわりを、さまざまな例を紹介しながら解説しました。

落語は化粧も背景も衣装も変えずに演じますが、このようなスタイルは世界で唯一といえます。つまり、お説教と同じで聞き手のイメージーションに任せられているの

ビジネス街のド真ん中で一席いかがですか？

相愛学園本町講堂で10月15日午後6時半から、「相愛寄席」春團治・春之輔親子会」が開かれました。申し込み多数で抽選になる人気ぶり。サラリーマンや学生、中高年から満席の約500人が講演と寄席を楽しみました。

- ◆プログラム(敬称略)
- 1. ごあいさつ 相愛大学学長 金児 暁嗣
- 2. 講演「仏教と落語と相愛大学」 人文学部教授 釈 徹宗
- 3. 桂 咲之輔 「平林」
- 4. 桂 春雨 「八五郎坊主」
- 5. 桂 春之輔 「豆狸」
- 6. 桂 春團治 「皿屋敷」



左から釈教授、桂春雨氏、桂春之輔氏

です。「もし相愛寄席が面白くないと感じたら、聴衆のみなさんのイメージーションが足りないのかも」と茶目っ気たっぷりに語ると、想像力豊かな聴衆でいっぱい会場は笑いに包まれました。

桂春之輔氏、客員教授に

この日の寄席では、上方落語協会幹事長の桂春之輔氏の相愛大学客員教授就任も発表されました。就任は平成23年4月1日。釈教授らとともに教壇に立つ予定です。さらに春之輔氏同様、春團治一門の桂春雨氏もともに教鞭をとりまわります。春雨氏は東京都出身で、上方落語の演目「時うどん」と東京の「時そば」の両方を演ずることができる稀有な「バイリンガル」。春之輔氏は「大らかに」教えて、春雨氏は「重箱の隅をつつくように(!?)」細かい説明を加える、と決意を語るなど絶妙なコンビネーションを見せ、聴衆の笑いを誘いました。



桂春團治氏の「皿屋敷」

公開講座

「大阪」から考える

相愛大学人文学部研究所主催の平成22年度「相愛大学公開講座」は、「大阪から考える」をメインテーマとして、下記の通り開催されました。

○釈徹宗教授の「宗教と芸能—仏教と上方落語」(9月4日)は、「仏教を知らずして落語は分からない」との命題を、落語に自然と取り込まれている源泉としての仏教をたずねて解説しました。

○千葉真也教授の「大阪の全盛期」(9

月11日)は、近世大阪の大繁栄のさまを、交通(水上)・経済(天下の台所)・商工業(商都)というハードな面と、大阪人ならではの精神というソフトの両面から浮き彫りにしました。

○小野真准教授の「古代仏教法会の素晴らしき—四天王寺聖霊会舞楽大法要について—」(9月18日)は、四天王寺の舞楽に仏教の深い意味を探り、実は舞台は、「聖徳太子が再来する浄土の顕現」であって、民衆に浄土の具体を認識させるものであったと解説しました。

○呉谷充利教授の「大坂の学—川、島、商、人—」(10月2日)は、幕府が創った江戸と民間人(商人)が創った大

坂を比較するところから始め、大坂の学には「自由」があり、自分という主体をかけた「人間の生きざま」の光彩があることを解説しました。

○山本幸男教授の「平安遷都後の難波地域」(10月9日)は、古代難波地域の国府(現・県庁)遷移を、資料を丹念に渉猟して意味づけました。特に「遊獵(鷹狩り)」という王権の嗜好が、遷移を左右させたことを解説しました。

平成23年度の公開講座も、引き続き「大阪から考える(part 2)」を予定しています。相愛大学人文学部の得意技です。ご期待下さい。

希望・勇気・友情 熱く語る

わかぎふ講演会



©NHK-NHK エデュケーション 2008

10月2日、気持ちのよい秋晴れの午後、本町の津村別院で、人間発達研究所主催のわかぎふ講演会が行われました。当日は相愛の教職員や同窓生をはじめ、わかぎさんのファンの方が多くご来場されました。

講演に先立ち、子ども発達学科学生有志で結成されているハンドベル隊によるウェルカム演奏(ヘンデル作曲「水上の音楽」)が行われ、続いて人間発達研究所所長の塩見邦雄先生が、講演会の「生きる力とは何か

というテーマの背景について、相愛の建学の精神である「當相敬愛」を参照しながら、話されました。

講演者のわかぎさんは、脚本家、演出家、役者、エッセイストという幅広い肩書をお持ちの方であり、いま広い年代から支持されている、NHKの英語番組「リトル・チャロ」の原作者でもあり、中学、高校と相愛で学ばれた方です。この講演会は、「相愛」というご縁で実現したと言っても過言ではありません。



講演では、2年間放映された前作の「リトル・チャロ」を中心に、製作過程での秘話を織り交ぜながら、物語にある、希望と勇気、友情の大切さについて熱く語っていただきました。わかぎさんの、大阪的なノリの良さに親しみを感じるとともに、ざっくばらんな楽しいお人柄の中にも、人生に対するひたむきさを感じることができました。この講演会の詳しい報告は、人間発達学研究第2号に掲載する予定にしています。ご期待を!

府立急性期・総合医療センターで インターンシップ

相愛大学人間発達学部子ども発達学科の4回生が10月4日から12月6日まで、大阪府立急性期・総合医療センターの小児科病棟でインターンシップを行いました。子どもたちの入院のストレスは大きく、その心にはとても大きな負担がかかっています。そのような中、病棟保育士のご指導を受けながら、子どもたちの遊び相手、話し相手になり、子どもたちの心の援助に取り組む活動を行ってきました。病棟保育の領域について実践的に学び、保育者としての専門性を広げることができました。



人間発達学部 公開講座

好評「メタボダイエット教室」

2006年度の発達栄養学科開設と同時に始まった「ダイエット教室」は、2009年度に「メタボダイエット教室」と改称。食と運動の両面からダイエットをサポートしていて、毎回好評を得ています。この講座には、発達栄養学科の卒業研究の学生も毎回ボランティアとして参加、受講生の方の食事調査を担当し、実学の力を身につけていきます。まさに、地域の方に育てていただいていると実感しています。



食育SATシステムによる食事診断をサポート



グループワークに参加

2010なにわ ソース1ぐらんぷりを受賞!

サークルKサンクスより
商品化決定!

「なにわの日」の7月28日、「なにわソース1ぐらんぷり」(通天閣主催、浪速区後援、カゴメ協賛)が大阪市浪速区の通天閣で行われました。「安くて、簡単で、めっちゃうまい。ホットプレートで作るソースメニュー」をテーマに、ソースを使った新しい料理を発掘し、大阪の活力をアピールしようと今年初めて実施されました。

大阪府内の大学から50組が応募。書類審査を経て4チーム(大阪芸術大学、大阪樟蔭女子大学、大阪府立大学、相愛大学)が自慢のオリジナルメニューを競い合いました。俳優の赤井英和さんらの審査の結果、本学発達栄養学科3回生の川越圭名子さん、大林朋子さんのチーム「Wcoco」(ダブルココ)が考案した「なにわサン家のじゃがトマさん」がグランプリを受賞しました。2人は「びっくりしたけれどすごく嬉しい。たこ焼きにも負けません」と話していました。「〜じゃがトマさん」は、コンビニエンスストア「サークルKサンクス」で商品化され、来年3月上旬、関西地区2府4県で発売予定です。



グランプリを受賞したWcocoの川越圭名子さん(右)と大林朋子さん



管理栄養士をめざす人間発達学部発達栄養学科

コンテストで続々と入賞!

発達栄養学科の進めるエクステンション(普及)事業・ボランティア活動は、「食」と「栄養」のプロをめざし、人々の健康を支える「食育」を究めることを目的に、産官学連携のもと様々な取り組みを行っています。このたび、学生自らが考案し応募した作品が見事入賞しました。がんばる学生たちを紹介します。

最優秀賞! 愛情お弁当コンテストで イズミヤで商品化

愛情たっぷりでお弁当の優れたお弁当を募集する「第7回野菜バリバリ愛情お弁当コンテスト」(イズミヤ(株)と大阪府主催、社大阪府栄養士会等後援)で、発達栄養学科3回生の久保美津穂さんが考案した「彩り野菜弁当」が最優秀賞に選ばれました。

コンテストには全国より383件の応募がありました。「彩り野菜弁当」は9月下旬から3週間、近畿地区のイズミヤ全店で発売されました。久保さんは「第6回コンテストで特別賞、そして今回は最優秀賞をいただき、自分が考えたメニューをたくさんの人に食べてもらえることの喜びを知りました。第8回コンテストでまた皆さんにおいしそうと思っていただけるお弁当を作れるように頑張ります」と話しています。

また、発達栄養学科1回生の今西温子さんが考案した「疲れ気味のお父さんへの愛情弁当」が社大阪府栄養士会長賞に選ばれました。



最優秀賞を受賞した久保美津穂さん(右)と彩り野菜弁当。左は大阪府栄養士会長賞の今西温子さん



「大阪産(もん) こだわり弁当コンテスト」で サークルKサンクス賞!

大阪府内管理栄養士養成校10校を対象にした「大阪産こだわり弁当コンテスト」(株サークルKサンクス主催、大阪府共催)で、発達栄養学科3回生の田中康博さんの作品「野菜バリバリ弁当」が見事「サークルKサンクス賞」を受賞しました。10月11日に御堂筋kappoで橋下徹知事も出席して表彰式が行われました。

大阪府では、府内の農林水産物の消費拡大等を目的として、府内で生産された農林水産物等を「大阪産(もん)」と位置づけ普及推進中で、コンテストはその一環として行われ、48作品の応募がありました。田中さんは、昨年度のコンテストでも特別賞を受賞し、現在、(株)サークルKサンクスが企画する「大阪府産官学連携大阪産応援プロジェクト」で活動しています。



●高3校外学習

高校3年生による秋の校外学習「着物であるく御堂筋」が、絶好の秋晴れとなった11月4日に行われました。今回の催しには148名が参加し、日本文化の象徴である着物に身を包み、すっかり色づいた銀杏並木の御堂筋を散策しました。

参加した生徒達は朝、京都和装産業振興財団に準備して頂いた色とりどりの町着「小紋」に着付けの講師の指導のもと着替え、北御堂(本願寺津村別院)で恒例の記念撮影をした後、数人ずつのグループにわかれ散策へ。行き交うビジネスマンやOLの注目を集め、いつもより背筋が伸び上品に歩く姿は優美で青春を謳歌しているようでした。

「着物であるく御堂筋」は今年で11回目となる相愛高校の人気行事。日本の伝統文化や学校周辺の史跡や商人の街「船場」を肌で感じてもらう校外学習として始まり、

「小紋」で優雅に
―着物であるく御堂筋



今や本町界隈の秋の風物詩として親しまれるようにもなりました。また、散策だけでなく、希望者を対象にした「御堂筋沿道の企業訪問」も行われ、生徒35名が12組にわかれ貴重な社会体験を行いました。

着物姿での企業訪問は「御堂筋AUTUMN GALLERY」(御堂筋まちづくりネットワーク主催)のイベントの一つとなっており、参

加者35名はネットワークに賛同する(株)竹中工務店、大阪ガス(株)、京阪不動産(株)、三井住友海上火災保険(株)の4社を随時訪問しました。三井住友海上火災保険(株)を訪問したグループは、同社関西総務部の長谷川憲一副部長から周辺地域の歴史や会社、保険等の説明を受け、真剣な表情で聞き入っていました。

●中学修学旅行 ― 沖縄

平和と自然 学ぶ

5月6日、関西国際空港を出発し、沖縄、那覇空港に到着しました。心配された天候も全く問題なく、晴れわたる青空が迎えてくれました。ひめゆり平和祈念資料館では、たくさんの展示品や映像を見ることで、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを学ぶことができました。

2日目は残念ながら雨。美ら海水族館では、ジンベイザメを始め、色とりどりの魚



に出会いました。午後より宮古空港まで飛行機にのり、川満 mangrove を見学しました。夕食はバイキングで、ゴーヤチャンプルや沖縄そばをおいしくいただきました。

3日目は前日と違い快晴に恵まれ、保良泉ビーチでマリンスポーツを体験しました。シーカヤックとシュノーケリングで広い海

の中を泳ぐ魚を見ることができ、午後からは地下ダム、宮古市総合博物館、みやこパラダイスで自然の大切さを学びました。

修学旅行最終日。朝からあいにくの雨でしたが、宮古島をあとに一路那覇へ向かい、琉球王国の歴史と文化を伝える世界遺産の首里城や中国の福州の庭園をモデルにした福州園を訪れました。その後、那覇空港を出発し、たくさんのおみやげと楽しい思い出を手に、無事に関西国際空港へ到着しました。この修学旅行から多くのことを学んでくれたと思います。

●高校修学旅行 ― 北海道

大自然に魅了され



8月29日、北海道への修学旅行がスタートしました。涼しい中での旅行を予想して

いましたが、例年になく30度をこえる猛暑続きで、生徒たちも驚きを隠せない様子でした。

1日目は、昭和新山や有珠山などの迫力ある活火山を見学し、大地の力の大きさを実感しました。2日目は、ニセコにて、アイスクリームやジャム作りを体験、そして待ちに待ったラフティングを行いました。中には、冷たい川に飛び込んだりする生徒たちも多く、大はしゃぎしていました。3日目は、小樽に移動して自主研修を行いました。家族や友人へのお土産を目当てに頭

を悩ませながら、いろいろなお店に足を運んでいました。4日目は、富良野で咲き誇る花畑を見学しました。大阪では味わえない自然の美しさに魅了されて、生徒たちもほのほのとしていました。そして、最終日の5日目、4泊5日の旅行に、大満足の様子でしたが、友人たちとの楽しい時間の終わりにちょっと寂しげな顔もぞかせながら、帰阪しました。

大きな事故もなく予定通りに行程を終えられたことが何よりでした。

みほとけの心 学園に

本山・御影堂の灯火(常灯明)から分灯した「安穩灯火」が全国を巡回する「安穩灯火リレー」は、9月16日に本山をスタート。南北2コースに分かれ、南コースの沖縄県を出発した安穩灯火が10月8日に大阪の津村別院(北御堂)へ到着するに先立ち、相愛学園本町学舎講堂において中・高全校生徒並びに教職員による分灯式が執り行われました。

●安穩灯火リレー

分灯式では、灯明を納めた金灯籠を捧げ持った本山職員が入場すると、生徒らが大きな拍手で迎えました。

出口湛龍理事長が、牧本校長と生徒代表の高校生生徒会長の森内友梨恵さん、副会長の桑原紗英さん、中学生生徒会長の吉倉ひなこさんにそれぞれ灯火を分灯しました。

また、相愛学園は津村別院(北御堂)の分灯式と連携し灯火リレーを実施。大阪教区



の分灯式終了後、高3の伊藤未来さんが栄所長から灯火を受け取り、高校陸上部員ら生徒8名と教職員5名が大阪城公園内の石山本願寺の跡地まで走り、南無阿彌陀仏の六字名号の石碑の前で法要を勤めました。

苦手を克服!! ●夏期学習合宿 高1・2特進コース



7月31日から8月2日まで、奈良県桜井市の多武峰観光ホテルにおいて学習合宿を

実施しました。合宿では、授業50分×2・理解度チェックとその解説60分・自習を一つのサイクルとして、英語・国語・数学の3教科で2回ずつの学習時間を取り、それ以外に自習150分を2泊3日の間に実施しました。普段の教室とは違い、環境を変えることで、一段と緊張した雰囲気でも勉強ができました。授業や理解度チェックについては、内容と目標がはっきりしているの

自分があとのくらいで目標に到達できるかを知ることができ、克服するために何をすればいいのかがわかります。また、合宿が終われば普段の生活に戻るの、そこでいかに勉強していけばいいかを考えて実行できるように、合宿最終日には、合宿後の夏休みの計画を立て、休み中の生活についても考える時間を作りました。最後に、今回の合宿では、たくさんの先生方やホテルの方にお世話になり、色々な場面で支えられているということに感謝します。

■コンクール入賞者■

【高校音楽科】

- 第64回全日本学生音楽コンクール全国大会 バイオリン部門 1位 松岡井菜(2年) 横濱市民賞 杉谷悠(3年)
- 第64回全日本学生音楽コンクール大阪大会 バイオリン部門 入選 中塚菜月(3年)
- 第23回和歌山音楽コンクール 弦楽器部門 高校生の部 第2位(1位なし) 中塚菜月(3年) ピアノ部門 高校生の部 第3位(2位なし) 生田英奈(3年)
- 第8回ソナタコンサート(新響楽器) 高校生部門 奨励賞 井川華(3年)pf
- 第20回クラシック音楽コンクール地区本選会 優秀賞 中塚菜月(3年)Vn、生田英奈(3年)pf ※12月全国大会出場
- 第4回全日本芸術コンクール関西本選 バイオリン部門 高校生の部 第3位 笠松弥央(3年)
- 第21回堺ピアノコンクール 奨励賞 佐藤麻衣(3年)
- 第15回高槻音楽コンクール高校生部門 優秀賞 佐藤麻衣(3年)pf、鹿島久美子(1年)pf、小栗佑奈(2年)sax

■コンサート報告■

【高校音楽科】

- 第14回河川西音楽協会 フレッシュコンサート 9/4 川西市みつなかホール 鹿島久美子(1年)
- 期待される若き演奏家の集い 5/5 茨木市クリエイティブセンター・センターホール 西川鞠子(1年)、松岡井菜(2年)
- 第15回リレー音楽祭 7/19 京都ライオンホテル 西川鞠子(1年)

- 第13回長江杯国際音楽コンクール ピアノ部門 高校の部 第4位 鹿島久美子(1年)
- 第12回万里の長城杯国際音楽コンクール 弦楽器部門 高校の部 第1位 杉谷悠(3年)
- ヤマハエレクトーンステージ三木楽器大会予選 優秀賞 園田穂月(1年)
- ヤマハエレクトーンジャム三木楽器大会 本選 銅賞 園田穂月、山内由華、松本奈菜(すべて1年)
- ヤマハエレクトーンコンクール2010 A部門 奨励賞 佐々木穂奈(1年) インターナショナル大会、国内選考22人の1人に選出
- 第20回摂津音楽祭リトルカメラコンクール 奨励賞 西川鞠子(1年)
- コンコルソ ムジカルテ(日本イタリア協会) 大阪大会 入賞 西川鞠子(1年) グラン・フィナーレ、来年1月出場予定

【中学校】

- 第16回熊楠の里音楽コンクール チェロ部門(Dクラス) 第1位 芝内あかね(3年)
- 第20回日本クラシック音楽コンクール ヴァイオリン部門地区本選 優秀賞 芝内もゆる(1年)
- 第15回高槻音楽コンクール 入賞者演奏会 10/30 鹿島久美子(1年)pf、佐藤麻衣(3年)pf、小栗佑奈(2年)sax
- 第13回長江杯国際音楽コンクール 入賞者披露演奏会 11/27 ピッコロシアター大ホール 鹿島久美子(1年)
- 第12回万里の長城杯国際音楽コンクール 入賞者披露演奏会 7/17 ライティホール 杉谷悠(3年)

【中学校】

- 大阪フィルハーモニー交響楽団 星空コンサート 4/24 大阪城・西の丸庭園 芝内もゆる(1年)



ソーアイカンタービレ!

音楽学部音楽マネジメント学科誕生劇



2010年7月10日、本町講堂は満席。立ち見のお客様が最後列の後ろにも並ぶ状態となった「ソーアイカンタービレ」が、音楽学部音楽学科4回生の上村真由美さん、山下拓郎さん、お二人の司会で始まりました。

最初の金見曉嗣学長の挨拶では、難波津から始まる大阪の歴史、相愛学園の歴史のお話、そして日本経済の活性化には、芸術文化の交流とその利用が必須の課題であるという文化経済学からの提言をご紹介いただき、音楽マネジメント学科の人材育成が、音楽の力を社会に広げることになり、大阪、ひいては日本を元気にするものであるという力強いお言葉をいただきました。

続いて音楽マネジメント学科設置準備室室長の安井敏雄教授の学科紹介です。音楽と経営学とITという三位一体の音楽マネジメント学科について、ご自身の経歴を交えながら語られました。特に、IT、経営については、2007年発売の「EM・ONE(エムワン)」「イー・モバイル」、同年発売の「iPhone(アイフォーン)」「アップル」、

2010年発売の「iPad(アイパッド)」(同)と、実物を手に取りながら情報端末とコンテンツ産業の移り変わりについてわかりやすく解説され、音楽マネジメント学科の果たす役割の重要性をお話いただきました。続いて大きな拍手とともに、吉本新喜劇と相愛大学教員、学生によるコラボレーション、音楽マネジメント学科誕生劇「ソーアイカンタービレ」が始まりました。東野ひろあき氏脚本演出による劇中にコンサートも入った公演です。

コンサートを作り上げる過程を描いたこの劇は、吉本新喜劇というお笑いを活用することで、コンサートを作り上げるためにどれだけの人が関わっているのか、どの

ような仕事があるのかをわかりやすく表現したものです。

劇中、音楽学部の学生も参加。一人ひとりに台詞をいただき、吉本新喜劇ならではの「コケる」シーンも、リハーサルで練習した甲斐あって、見事に決まりました。



劇のクライマックスはコンサートです。いろいろな人が関わってできあがったコンサートは、ピアノ独奏児嶋一江先生、泉貴子先生と馬場清孝先生の稲垣聡先生ピアノ伴奏による歌唱、飯塚一朗先生率いる金管楽器アンサンブルと多彩な演奏です。

最後は、大前哲音楽学部長のご挨拶。本町に新しい校舎ができることをご紹介いただき、笑いと大きな拍手の中で幕を閉じました。

この誕生劇を通じて、コンサートを作り上げるのに関わっている人々、音楽マネジメントの仕事が、わかっていたのではないかと思います。今後、音楽マネジメントという仕事、音楽マネジメント学科についてみなさんに知っていただけるよう、この「ソーアイカンタービレ」公演は、定期的に行う予定です。

100回公演は「フィガロの結婚」 北御堂相愛コンサート



本願寺津村別院(北御堂)の本堂で毎月1回12時25分から開かれている「北御堂相愛コンサート」が、9月30日に記念すべき100回目の公演を迎えました。

このコンサートは北御堂が宗門関係学校

である本学と平成14年に開始。学生や卒業生にとって貴重な発表の場です。今回は特別講演として、音楽学部卒業生による「フィガロの結婚」の名場面が演奏され、詰めかけた市民ら約200名から歓声を浴びました。



優勝をパレードする鍛本さん(左)とペア

本学卒業生 鍛本さんペア タンゴ世界一に

本校音楽学部声楽科卒業生である鍛本知津子さんがアルゼンチン人のディエゴ・オルテガさんとペアを組み、ブエノスアイレスで8月31日に行われた第8回タンゴダンス選手権のステージ部門に出場し、18カ国405組のペアが参加するなか、見事優勝しました。この部門で日本人が優勝するのは初めてです。

鍛本さんは6歳でバレエを始め、その後

ジャズダンス、タップダンス、サルサ、スウィングなど様々なダンスを学びました。本校卒業後に数々のミュージカルに出演し、2003年よりタンゴを学び始めました。06年には初めて出場した同世界大会で5位になっています。

この部門でタンゴを始めて約7年の日本人が初めて優勝したことから、全国で大きな話題となりました。

今年も華やかに —相愛オーケストラ第54回定期演奏会



大学音楽学部、高校音楽科、相愛音楽教室の学生、生徒たちによる相愛オーケストラ第54回定期演奏会が9月24日、大阪市のザ・シンフォニーホールで今年も華やかに開催されました。2008年のヨーロッパ演奏旅行で本オー

ケストラを率いた日本屈指の名指揮者、尾高忠明氏、本学教授の酒井睦雄氏の指揮のもと、四つのオーケストラは創設以来50余年の歴史の上に培われた名演奏を次々に繰り広げ、満員の聴衆を魅了しました。

五嶋みどりさん 瀬戸内寂聴さん 客員教授に

作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんと、バイオリニストの五嶋みどりさんに本学の客員教授にご就任いただきました。お二人には来年度以降、授業や地域への貢献活動としての公開講座等を担当していただくとともに、学外有識者としての立場から、本学の教育・研究活動に関わる種々のアドバイスをいただきます。



せとうち・じゃくちょう 僧位は僧正。1997年文化功労者、2006年文化勲章。東京女子大学国語専攻部卒業。徳島市名誉市民。京都市名誉市民。元天台寺住職・現名誉住職。比叡山延暦寺禪光坊住職。元敦賀短期大学学長。代表作に「夏の終り」「場所」「現代語訳源氏物語」など。

ごとう・みどり 1982年、ニューヨーク・フィルとの共演でデビュー。世界各地で幅広い演奏活動を続けている。アジア圏、米国で目的に合わせたさまざまなプロジェクトを企画、団体を組織。NPO法人ミュージック・シェアリング理事長。南カリフォルニア大学ソントン音楽学校弦楽学部主任教授。国連平和大使。



相愛大学本町学舎1号館 御堂筋本町に 2012年4月完成予定

(完成予想図)



※大阪市営地下鉄御堂筋線・中央線
本町駅直結

速報

松岡井菜さん(相愛高校2年) 学生音コン全国第1位に ——バイオリン高校の部

11月29日の第64回全日本学生音楽コンクール全国大会シリーズ(毎日新聞社主催、横浜市共催)バイオリン部門高校の部で、高2の松岡井菜さんが第1位に選ばれました。松岡さんは「信じられなくて何度も(発表の用紙を)見直しました」と喜びを話しました。

昨年は大阪大会3位で全国大会出場を逃した松岡さん。全国大会初出場の今年はブルッフの「スコットランド幻想曲」を弾きました。「第1楽章に、ただ悲しいだけでなく哀愁や郷愁が濃く出ています。寒い朝の澄んだ空気のおいがする曲です」。いつか弾きたかったという曲を、大舞台で見事に演奏しました。将来はバイオリニストを目指しているのはもちろん、「音楽を作り上げる仕事だから」と指揮者も兼務する夢を持っています。



バイオリン部門高校の部で全国1位の松岡井菜さん=横浜市西区の横浜みなとみらいホールで11月29日(毎日新聞社提供)

■音楽教室・コンクール入賞者■

- 第15回 KOBE国際音楽コンクール
弦楽器A部門 優秀賞・神戸新聞社賞 中西美月(小6)
奨励賞 徳田佑馬(小4)
- 第10回アールンピアノコンクール全国大会
C級 第6位 市川貴一(中1)
- 第8回堺国際ピアノコンクール
ジュニア部門A級 奨励賞 中村直路(小1)
- 第16回熊楠の里音楽コンクール
ヴァイオリン部門Cクラス 第3位 福西杏月(小6)
チェロ部門Dクラス 第1位 芝内あかね(相愛中3)
- 第34回ピティナ・ピアノコンペティション
C級地区本選 優秀賞 佐藤希捺(小5)
B級地区本選 奨励賞 生駒玲佳(小3)
A1級地区本選 入選 中村直路(小1)
- 第22回子供のためのヴァイオリンコンクール
金賞・奨励賞 久留早百合(小6)
銀賞 西田文(小5)
- 第4回全日本芸術コンクール
ヴァイオリン小学3・4年の部 第1位 岩谷弦(小4)
- 第37回日本ギターコンクール
オスール・ソロ部門 第3位 宇田奈津美(高3)
- 第12回関西弦楽コンクール
優秀賞・審査員特別賞 久留早百合(小6)、内尾文香(中2)
優秀賞・審査員賞 都呂須七歩(小4)、中川茉莉花(中3)
優良賞 木村広(小2)、岩谷弦(小4)、原冬野(小4)
- 第23回和歌山音楽コンクール ヴァイオリン部門
小学校高学年の部 第3位 堀江菜衣(小6)
中学生の部 第3位 井口華奈(中3)
- 第12回日本演奏家コンクール
弦楽器部門小学校低学年の部 第2位 木村広(小2)
- 第20回グレンツェンピアノコンクール
滋賀地区予選小学3・4年生Bコース 銀賞 生駒玲佳(小3)
- 第20回日本クラシック音楽コンクール
ヴァイオリン部門地区本選 優秀賞 芝内もゆる(相愛中1)
- 第1回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan
小学生1・2年生自由曲部門 大阪地区本選
優秀賞 中村直路(小1)
- 第11回大阪国際音楽コンクール弦楽器部門
age-H エスポール賞 山内麻莉(高3)
age-J アヴニール賞 内尾文香(中2)、中川茉莉花(中3)
age-E2 第3位 久留早百合(小6)
age-E2 入選 中西美月(小6)
age-J 入選 永田真子(中2)
age-H 入選 宇田奈津美(高3)
- 第64回全日本学生音楽コンクール 大阪大会 バイオリン部門
〈小学校の部〉
入選 久留早百合、水谷智咲、森田恵美里(すべて小6)
〈中学校の部〉
第3位 内尾文香(中2)
入選 中川茉莉花(中3)
〈高校の部〉
入選 山内麻莉(高3)
- IV Moscow International David Oistrakh Violin Competition(ロシア)
カテゴリーA ファイナリスト 黒田小百合(中1)
- 第12回ショパン国際ピアノコンクールin ASIA
富山地区大会小学3・4年生部門 銅賞 生駒玲佳(小3)
- 第3回日本芸術家協会コンクール
Eクラス チェロ部門 第1位 杉本環紀(中3)
- 第10回泉の森ジュニアチェロコンクール
中学生の部 銅賞 杉本環紀(中3)

チェロの魅力

～林裕先生をお招きして～

相愛音楽教室鑑賞演奏会

毎年秋の相愛音楽教室の恒例行事となった相愛音楽教室鑑賞演奏会。今回は「チェロの魅力」と題して、この春より相愛大学准教授に就任したチェリスト・林裕氏のチェロ演奏が行われました。演奏会では同じくチェリストで相愛大学教授、音楽教室室長の斎藤建寛氏のチェロに関するお話や、林・斎藤両氏によるチェロ二重奏などもあり、集まった300人余りの聴衆をすっかり魅了しました=写真。



- ◆演奏曲目◆
- ショパン/序奏と華麗なるポロネーズOp.3
 - サン＝サーンス/白鳥
 - ポツパー/紡ぎ歌Op.55-1
 - ピアッティ/2本のチェロのためのセレナーデ
 - シューマン/アダージョとアレグロOp.70
- ピアノ伴奏は相愛音楽教室講師の林貴子氏。

相愛音楽教室2011年度春期入室生募集

- 音楽教室2011年度募集
・A日程 3月20日(日)願書受付2月1日～3月9日
・B日程 4月 3日(日)願書受付2月1日～3月25日
募集対象=年齢2年前より大学受験生まで
- 「2011年度春期入室準備クラス」開講中 毎月受付
- 相愛音楽教室 通信教育《楽典》随時受付

豊中市教育委員会と連携協力協定を締結

本学は10月27日、豊中市教育委員会と連携協力に関する協定を結びました。調印式は本学南港学舎において金児暁嗣学長、豊中市教育委員会の山元行博教育長のほか、双方の関係者10名が出席し、行われました。

この協定は、教育に関して相互の機能を活用して実践的な連携協力を行うことにより、豊中市の教育及び相愛大学における教育・研究の充実発展に寄与することを目的としています。具体的には、食育に関する教育支援及び社会貢献活動に関することについて連携協力することになります。



大阪市とも包括連携協定を締結

10月29日、大阪役所において、大阪市・北山啓三副市長、本学・金児暁嗣学長のほか、双方の関係者6名が出席し、大阪市と本学との間で、相互に協力し活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的として、右記に掲げる内容について連携・協力するための協定を締結しました。



連携・協力内容

- 1.教育研究の向上に関すること
- 2.芸術・文化の振興に関すること
- 3.生涯学習の振興に関すること
- 4.まちづくりに関すること
- 5.その他

BOOKS

●本学教員の近刊図書



- 1『現代霊性論』 内田樹・積微宗著
●300円。講談社(2010年2月22日発行)。定価1500円(税別)。
- 2『現代人の祈り—呪いと祝い—』 積微宗・内田樹・名越康文著
●258円。サンガ(2010年7月2日発行)。定価1400円(税別)。
- 3『おてらくご』 積微宗著
●155円。本願寺出版社(2010年9月15日発行)。定価1800円(税別)。
- 4『おせっかい教育論』 鷺田清一・内田樹・積微宗・平松邦夫著
●218円。140B(2010年10月10日発行)。定価1200円(税別)。
- 5『構築された仏教思想—親鸞 救済原理としての絶対他力—』 積微宗著
●134円。佼成出版社(2010年9月20日発行)。定価1400円(税別)。
- 6『関う地域社会—平成の大合併と小規模自治体—』 青木康容・田村雅夫編(第6章「自立を選択した自治体の生き残り戦略」藤谷忠昭著)
●286円。ナカニシヤ出版(2010年4月発行)。定価2800円(税別)。
- 7『新訂 独習聴音問題集 上・下』 赤石敏夫著
●118円。全音楽譜出版社(2010年3月15日発行)。定価各2400円(税別)。

平成21年度事業報告

事業の概要

平成21年度の事業計画を以下の通りとりまとめた。

1. 平成21年度の特別予算措置は

重点事項予算

- 学園広報に関する特別予算
- 教育研究条件に関する事項として、補助金の対象と成り得る教育・研究に対する特別補助、音楽学部2名の研究者には特別演奏会への補助、人文学部2名の研究者には研究成果刊行助成、特別研究費の補助を実施した。
- 南港ホールスタンウェイピアノ購入に関する事項
- 相愛大学オーケストラ広島文化芸術ホール(アルソックホール)特別公演
- 高等学校 中学校英検CATスクールライセンス購入
- 高等学校音楽科新設コースの機器購入に関する事項 鍵盤楽器専攻「電子オルガン」電子オルガン1台
- アソカ幼稚園提携に関する事項
 - の以上で、広報、研究補助、教育設備整備、イベント、及び提携幼稚園との連携として講師派遣において園児対象英語学習、学生等による園児参加の音楽会、保護者向け講演会を実施した。
- 平成23年度開設の大学新学科設置の事前調査・申請準備に関する事項において新学科設置事前準備を実施した。

II. 大学について

1. 音楽学部

音楽学部では平成21年度の事業計画として、学内、学外における各種のコンサートやオーディションの開催、外部招聘による公開レッスンならびに公開講座、国際交流としてのヨーロッパ研修、さらには夏期・冬期受験講習会等が予定されたが、年度当初の新型インフルエンザの影響でいくつかの事業予定を延期、あるいは中止せざるを得なかった。

1) コンサート関連

学内コンサートとして、各専攻による「学内演奏会」、各種の「アンサンブル演奏会」、「ウィンド・オーケストラ・ポップコンサート」、「作曲専攻による「作曲作品発表会」、声楽専攻生の「オペラ試演会」、「卒業演奏会-第1日」、各専攻の担当教員が出演する「教員によるSOAI Concert」等の数々のコンサートが本学南港ホールにおいて行われたが、学生の日頃の技術の修練を、教員においては研究成果を問う貴重な場となった。学外でのコンサートでは「ウィンド・オーケストラ定期演奏会」(神戸文化ホール)、「相愛オーケストラ定期演奏会」(サ・シンフォニーホール)、「相愛オーケストラ定期演奏会 コンチェルトの夕べ」(いづみホール)等が開催されたが、いずれも多くの聴衆を得て成功裏に終えることが出来た。その他、音楽専攻科生による「修了演奏会」(フェニックスホール)、「卒業演奏会-第2日」(いづみホール)が公開され、修了生、卒業生の学業成果を充分に示した。また、相愛オーケストラの特別演奏会として「交響讃歌「親鸞」」の西本願寺公演及び広島公演が行われた。まず、親鸞聖人750大遠忌法要記念・本願寺御影堂平成大修復完成記念「相愛オーケストラ御堂演奏会」が西本願寺において5月に催される予定であったが、新型インフルエンザのため順延され9月に開催された。御影堂初という記念すべきオーケストラ公演を、参集した700人の聴衆は厳肅な雰囲気の中、静かに聴き入った。さらに10月には「交響讃歌「親鸞」を聞く夕べ」(アルソックホール)が崇徳高校ギタークラブの協演を得て盛大に披露された。本願寺広島別院、中国新聞社その他多くの協力、協賛を得て開催されたが、関係者各位に感謝の意を表したい。

2) 公開レッスン、公開講座

外部招聘による公開レッスンならびに公開講座に関しては、「公開講座フルート(バーツァフ・クラフト)」、「K.ゲルジョード・リサイタル」、恒例の「公開講座ヴォーラ・スペース」等が開催されたが、いずれも極めて質の高い内容で、学部学生に対する教育効果を充分に示すものであった。

3) 国際交流事業

国際交流事業としての学生のヨーロッパ研修は例年通り、国際交流提携校であるポーランド・ワルシャワのシヨバン音楽院、イタリア・ミラノのヴェルディ音楽院での夏期講習会が予定されていたが、やはり、新型インフルエンザのためヴェルディ音楽院の夏期講習会を中止せざるを得なかったことは残念であった。今後国際交流事業の発展と充実を図りたい。平成21年度末、新学科「音楽マネジメント学科」設置が文部科学省「運営委員会」の認可を得たが、平成23年度の開設に向け本格的な準備を始めることとなった。

2. 人文学部

人文学部の平成21年度事業は次のとおりである。

- 学術交流・留学生交換協定を結んでいる大学からの留学生の受け入れおよび研究交流を促進するための態勢を充実させる。過年度も大学間協定を基礎として交流を学部の最重要課題として位置づけ、予算整備、規程づくりを通じ積極的に取り組んできたが、さらなる施策の具体化をめざす。
- 大学全体の将来構想、学科再編を視野に入れた教育環境およびカリキュラムの見直しを行う。また学部の設置目標の達成に向けて、教授会、各委員会、学科などの機関運営を円滑にし、活性化する。
- 人文学部研究所と連携して、公開講座などを開催、地域貢献や学際的発信事業を行う。

上記3点の実施状況は以下のとおりである。

- については、研究の交流という点で新しい展開があった。すなわち、外国人研究員として、前期に中国・東北大学外国語学院日本語学部準教授王岩氏を、後期に長春師範学院外国語学院より鄭慧娜氏を迎えた。平成21年7月15日には、王岩氏を講師として、「中国における日本観の変遷」と題した公開講演会(人文学部研究所主催)が開催された。昨年度に引き続き、中国の協定大学から多くの留学生を受け入れたが、留学生対策全般について、さらに改善の余地がある。国際交流部および留学生センターと協力して解決すべき課題は多く、学部として見直しの議論があってよい。2)については、平成23年度の学部再編をめざして、新学科設置準備委員会を設け、再編に関わる諸問題に対処した。既存の学科のうち、日本文化学科は継続し、新学科として仏教文化学科と文化交流学科の二つを新たに開設して、学部三学科体制にする予定である。学部構成員の中にはこのような将来構想に理解のない教員がいたが、再編の実現に向けて、学部をあげて取り組む必要がある。3)については、「比較文化を語る」というテーマで、公開講座を平成22年2月から3月にかけて、計5回実施した。

3. 人間発達学部

人間発達学部は、生涯における心身の健全な発達を支援するための学術的研究と教育を行い、これらの成果を生かし、多様な社会支援能力をもつ人材を育成し、社会への貢献を行うことを目指す。これらの教育や研究のプロセスには、大学外へのエクステンション(普及と交流)に学生を参加させ、学生の学びが現実の人間生活を基盤とした発達の営みを理解することから、乖離することなく深まることを重視する。そのため、すでに連携を深めつつある民間企業や大阪府等との産官学連携をエクステンションの展開に活用し、地域住民に対しては、身近で親しみやすいポピュレーションアプローチの方法を取り入れている。また、地域の生涯学習事業などに教育スタッフや学生の開発した教材などの教育資源を提供することにより相互交流を図り、「当相敬愛」という相愛大学の建学精神をもとに教育と研究を推進する。両学科とも、上記のような教育を展開する中で、学生が人間発達に関する基本的学びと応用的能力を養えるよう教育課程を展開した。

1)子ども発達学科

子ども発達学科では、近年の保育・教育情勢を鑑み、保育士養成に加え平成19年度より幼稚園教諭と小学校教諭の養成課程を設け、資格・免許併有の促進を図る養成機関として新たに出発した。発達についての基本的・総合的な視点を持ち、子どもを理解する力や保育や教育を構想する力、関係性を構築する力などを身につけ、実践力豊かな保育士や幼稚園教諭、小学校教諭を育成することを目標として、教育内容や方法を工夫してきた。具体的には、より地域に開かれた大学、地域とともに歩む大学であるため、子ども発達学科のもつ知的財産を地域の生活と健康を守るために必要な情報として発信し、地域に深く根づくことを目指し取り組みを行った。まず、子育てに関する意識を高め、親への支援を図ることを目的に公開講座(子育て支援講座)を学生の参加のもとに開催した。また、学生の学びの場として地域の保育施設(保育所・幼稚園)と連携したり、地域の子育て家庭が参画した授業実践を行ったりして、学生の実践力を高める教育方法の工夫を行った。また、発達障がいのある子どもの教育相談を実施した。さらに、大阪市および大阪府の職員研修会の講師を務めるなど地域の保育・教育の向上に取り組んだ。一方、学外実習の指導体制を充実させ、教員の教育活動と保育・教育実習指導室および学校教育実習指導室の機能を密接に連携させ、面会見のよい一貫した実習指導を展開した。学外の実習成果を生かし、高い就職率を引き出した。今後も地域社会への貢献や情報発信を積極的に行っていくと同時に、学生への教育活動の充実を図っていく。

2)発達栄養学科

管理栄養士の養成を主たる目的とし、管理栄養士教育の高度化を図る。1、2回生に対しては、管理栄養士の資質を基礎づける基本的知識・スキルの向上を目的として、着実に授業

を進めた。3回生以上には、管理栄養士として、将来社会で働くことを視野に入れた学びを深められるように、現場で活躍する職種別管理栄養士による講話や演習なども取り入れた授業も行った。国家試験対策については、一学期間ごとに、各学年の学びに応じた到達度試験を行い、また外部の模試等も導入しつつ、学びの進捗を記録した個々のポートフォリオを作成し、個別の諸状況に対応したきめ細やかな指導を行った。また、食育フォーラム事業として、厚生労働省における健康づくり施策の一つであるポピュレーションアプローチの展開による環境整備として、地域と外食・流通産業、食品産業等と連携・協働した次のような事業を行い、食育の発展を目指す。即ち産学官の連携・協働によるイスマヤ「愛情お弁当コンテスト」や食育ボランティアとしての参加事業として、「みんなで広げよう！食育フェスタ」(大阪府、大阪府食育推進ネットワーク会議主催)「野菜バリアリ」食育モリモリ元気っ子」推進キャンペーン(大阪府、他主催)などであった。

4. 共通教育センター

発足2年目を迎え、8名の専任教員でそれぞれの役割分担を決めて、運営にあたってきた。定期的な教授会や会議を開催し、必要な事項を審議ないし協議してきた。主たる事業として下記の5つを計画し、以下のように実施した。計画された事業は次の通りである。

- 宗教学、外国語、情報、体育などを始めとする共通科目を中心として、教職課程、司書課程などの授業の運営をおこなう。
- それぞれの教員が部門別の担当にあたり、非常勤講師との連絡調整を普段からおこなう。また年度末に翌年度に向けての講師との懇談会を開催する。
- 大学教育学会、教職課程連絡会、図書館学会、ビジネス学会、関西FD連絡協議会等に参加して、情報交換や研修に努め、カリキュラムや授業改善を図る。
- FD委員会と連携してFD研修会を実施する。
- 音楽学部の協力を得て教員免許更新講習会を開催する。

上記5点の実施状況は以下のとおりである。
1)については、おおむね滞りなく運営が行われた。しかし、当センター所属教員の退職や配置換えがあり、今後、従来通りの運営が困難になる可能性がある。2)については、それぞれの教員が部門別の担当にあたり、非常勤講師との連絡調整をおこなった。また、例年通り3月に2日間におわたって22年度に向けての講師との懇談会を開催した。限られた予算の中で、可能な限り、授業環境の改善に結びつける対策をとるようになっている。3)についても、当初計画の通り各学会などに参加した。さらに、基礎・地域科目の大規模な改定を行った。すなわち、平成12年度に人文学部・音楽学部の大規模な改編が行われて以来、抜本的な見直しを行わずに経過していた、基礎・共通教育カリキュラムの全面的な見直しを行い、23年度実施予定の新カリキュラムを作成した。カリキュラムは人文学部・社会科学・自然科学などの各領域のバランスを重視し、さらに近年特に重視されてきた日本語力の涵養、修業力の養成に配慮する物とした。4)については、FD委員会と連携してFD研修会として講演会を2月22日に実施した。講師は、西垣順子氏(大阪市立大学准教授)、演題「学生の基礎学力をどう育成するかー読み書き能力を中心として」である。大学生の日本語能力・コミュニケーション能力の不足が社会的な常態になっていることもあり、非常勤講師を含め、参加者は約50名を数えた。5)については、音楽学部の協力を得て、教員免許更新講習会を実施し、参加者は3講座で延べ54名だった。受講者の反応は非常に良好であり、継続的な開催を望む声卒業生から寄せられている。

5.国際交流について

文部科学省が留学生30万人計画を打ち出すことに象徴されているように、昨今の日本では高等教育機関の国際化が叫ばれている。本学でも、留学生の受け入れに本格的に取り組むようになった。平成21年度は、
1)留学生派遣プログラム
2)海外における夏期講習
3)教員の交流
4)留学生受け入れ(留学生センター担当)
の4分野で予算を組み立てた。以下、各々について報告する。
1)留学生派遣プログラム
予算段階では、長期派遣留学(アメリカ合衆国：北コロラド大学)、短期派遣留学(アメリカ合衆国：北コロラド大学、イギリス：アングリア・ラスキン大学、オーストラリア：南クイーンズランド大学)が計画されていたが、希望者がおらず、実施することができなかった。派遣留学生の主体となる人文学部英米文化学科の在籍者数が極端に減じたことによると思われる。なお、今年度はイタリアのノヴァラ・グイド・カン

テッリ音楽院へ1名の学生(専攻科在籍)を派遣した。

2)海外における夏期講習(学生の海外研修)

平成21年度も夏期休暇期間を利用して、学生(一部卒業生を含む)が外国の高等教育機関で学ぶ講習を実施した。予算の段階では次の講習の開催を計画したが、その中でアメリカの北コロラド大学への英語語学研修と、中国の北京外国語大学への研修は応募者が催行人数に達しなかったために、実施しなかった。またイタリア研修は、世界的な新型インフルエンザ流行のため、中止された。予定通りに実施できたのはポーランドのシヨバン・アカデミーでの研修だけであった。
・英語語学研修：北コロラド大学、アングリア・ラスキン大学
・中国研修：北京外国語大学
・音楽研修：シヨバン・アカデミー
・音楽(声楽)研修：ミラノ・ヴェルディ音楽院
なお、上述のような実施状況を踏まえ、国際交流部運営委員会では、平成22年度以降の海外研修事業について、現実に対応した形での実施方法の見直しを検討している。

3)教員の交流(外国人講師招聘)

音楽学部では、毎年国外の提携校から教授を招聘し、およそ1ヶ月に渡って実技レッスンを実施している。平成21年度は5月に、ポーランドからゲルジョード教授(ピアノ)を迎えた。日本国内での新型インフルエンザの流行とそれに伴う休校措置が招聘期間とかさなり、予定していた公開演奏会は実現できなかった。しかし、ゲルジョード教授は休校期間中も、連日、本学に登校し、コンディション維持に専念され、休校措置解除の後には精力的にレッスンを行って、教員・学生に感銘を与えた。今年度は、中国との交流において新たな展開があった。中国の提携校から教員2名(前期1名、後期1名)を人文研究所研究員として招聘し、大学院生1名(後期)の研修を受け入れた。さらに、招聘研究員による学内講演会も実施された。中国との提携の本格化にはびくくものである。また、人文学部の孫教授が昨年度に続き、中国に招聘され授業などを行い、提携校との関係の増進をはかった。
4)留学生受け入れ(留学生センター担当)

人文学部は国際交流事業を重要視し、平成21年度もさまざまな国際的プログラムを展開した。特に、以下の高等教育機関との学術交流協定に基づき、留学生の受け入れと教員の交流に重点を置いたプログラムを実施し、成果を上げた。
・中国：北京外国語大学、北京聯合大学旅游学院、浙江工業大学外国語学院、浙江工業大学之江学院、浙江林学院、長春師範学院外国語学院、東北師範大学人文学院、東北大学外国語学院、遼寧大学外国語学院、大連大学
以下、留学生の受け入れ等につき、詳細を記す。

a.留学生の受け入れ

本学は上記の中国における提携校から人文学部に留学生を受け入れた。受け入れは、2年間在籍する3年次への編入と、1年間在籍する派遣留学の2種に分けて行い、平成21年度は人文学部全体で40名の編入生と19名の派遣留学生を受け入れた。いずれの学生も、筆記試験と面接によって日本語(及び英語)の能力を測る試験に合格した者である。編入生の特長は、日本語・日本文化、異文化を知る良い機会を得た。派遣留学生は、1年間本学で日本語・日本文化などを学んだ後、それぞれの進路を決定した。留学生は教室での勉強だけではなく、留学生センター主催の京都、奈良、神戸への学外研修にも積極的に参加し、日本文化を直接体験する機会を持った。さらに、人文学部の学科主催の課外プログラムとして開催した英米文化を体験する行事や日本人学生との交流会にも参加し、留学生、日本人学生共に、異文化を知る良い機会を得た。留学生センターは、良質で安価な住居の斡旋をはじめ留学生の日常的な生活面から進学・就職などの進路決定についての指導・アドバイスといった勉強面でも、幅広い支援をきめ細かく行なった。勉強を支援するための図書や資料の整備も行い、留学生の要望に即時に対応するよう努めた。このような支援の結果、編入生はいずれも優秀な成績で進級を果たした。英米文化学科3年生在籍の学生のうち2名は、TOEICテストで920点、875点という高得点を獲得し、学長賞を受賞した。派遣留学生は、日本国内の大学院への進学(3名)、相愛大学への編入(8名)、日本国内の専門学校への進学(1名)、帰国(就職、進学など)(7名)という進路を選択した。さらに、平成20年度に編入生として入学した留学生24名が平成21年度3月に本学卒業を迎え、日本国内の大学院進学(7名)、大学院研究生(3名)、専門学校進学(1名)、就職(1名)、日本での就職活動(2名)、帰国(10名)の進路を歩むことになった。
b.留学生の募集

10月12日から22日まで、人文学部の教授2名が中国の4都市(杭州、北京、長春、瀋陽)に出向き、入学試験を行った。試験は日本語(志望学科によっては、日本語および英語)による筆記試験と面接試験である。これにより、編入学生50名と派遣留学生35名が平成22年4月に本学に入学することと

なった。

c.教員の交流

外国人研究員の受け入れ規程の整備に伴い、交流協定締結大学から研究者の受け入れを実施した。平成21年度前期の半年間は中国東北大学外国語学院から、後期の半年間は長春師範学院外国語学院から1名ずつ研究者を受け入れた。研究の成果は、本学での研究発表や『相愛大学人文科学研究所研究年報』(第4号)への論文発表という形でも表されている。さらに、東北大学外国語学院大学院生1名を研修生として受け入れた。また、受け入れのみではなく、本学人文学部の教員が中国の交流協定締結大学でのシンポジウムに参加したり講義を担当したりと、教員間の交流は活発化してきている。シンポジウムの内容は提携校と共同で一冊にまとめられ、中国で出版される予定である。

d.交流協定締結大学との交流の維持・拡充

7月に浙江工業大学外国語学院から3名、11月に遼寧大学から5名の代表団が本学を訪問した。そして、学長との会談などで交流拡充に向けて話しを行った。また、留学生とも懇談の場を持ち、留学生活全体の様子を把握したり、図書館、学生支援センター、教務課などを訪れ、学生の勉強面及び生活面での環境を確認した。一方、相愛大学からは、9月下旬に電子ジャーナルのリンクを取り纏めた電子ジャーナルA to Z(タイトル順リスト)を公開し、利用の便を図った。
4)その他

図書館の新着資料リスト『ソラリス』について、当初は月1回の発行予定であったが、研究費図書点検・整理作業などに追われ、発行が遅ってしまった。新規受入資料は、携帯電話などからも調べることができるが、『ソラリス』には一覧性という冊子ならではの長所があるので、今後は定期的に発行すると共に、利用者とのコミュニケーションの場ともなるよう内容を充実させたい。

6.自己点検について

2007年度に自己点検報告書の作成に着手し、2008年度に報告書を大学基準協会に提出したが、大学基準協会による評価は、きわめて厳しいものであった。絶えざる自己点検は大学の教育の質を維持するために必要不可欠のものであるという認識に立って、自己点検体制の見直しを行い、2009年度にも自己点検を実施し、報告書をまとめるということで点検作業を進めた。ようやく原稿がほぼ出揃い、2010年度早期に『響刊』第4号が出せるところまで到達した。また授業についての学生アンケートを全面的に見直し、原則的にすべての授業について授業評価を実施することと、教員によるリフレクションペーパーの公表を行うという新方針の下に前期にアンケートを実施した。アンケート結果の集約の後に、FD委員会においてアンケート結果をどう評価するかというところで議論を積み重ね、年度末にコメント付きの冊子として公開することができた。また大学基準協会から改善を要するという指摘のあった諸問題について、学長企画会議、自己点検委員会、教務委員会、FD委員会などで恒常的・継続的に改善作業を実施する体制をとり、可能なところから改善を進めた。

7.図書館に関する事項

1)教育・研究支援

図書館では、平成21年度も、例年通り新入生対象にオリエンテーション期間を利用して、基本的な図書館利用のガイダンスを行った。人間発達学部では、『発達栄養ベーシックセミナー』というカリキュラムの一環として図書館での文獻調査演習が行われ、図書館もこれに積極的に対応して、OPACの利用方法、データベースを利用した文獻調査法を紹介するなど図書館利用授業が生じた。また、教員からの個別の要望により、ゼミ単位での利用指導なども実施した。その他、卒論作成者への情報検索ガイドなど個別支援も随時行い、潜在的な情報要求の引き出しに努めたが、事業計画で課題としてあげた図書館間の相互利用件数についていえば、平成21年度は他大学からの申込、本学からの依頼共に、前年度の7割にとどまっている。卒論を作成する学生数が減少していることためて、本学からの申込数の減少に歯止めがかかっていない状況であり、利用者のニーズをどう拾い上げ、情報提供という目に見える形に結びつけるかは、依然検討課題である。

2)図書館利用支援

平成18年度以来、図書館では利用者増加を目標に掲げ、開館日数、開館時間の延長を行ってきた。平成21年度は、通常授業期の土曜日開館時間を従来の午後3時半から午後5時半へ延長し、利用者に對して図書館利用の利便性を向上を図った。その結果、年間の利用者数(入館者数)は、平成20年度に比べ、微増にとどまったものの、土曜日の開館延長時の利用者数は、着実に増加した。館外貸出冊数は、平成19年度の約1.8倍という高い伸びを示した平成20年度の水準を維持し、CDの貸出点数こそ減少したものの、図書の出貸冊数は日本文化学科などで顕著な増加傾向を見せている。また、平成21年度には図書館主催のOPAC講習会、データベース講習会や、留学生を対象とした情報検索講習会を開始した。PR不足もあって、初年度は多数の参加があったとはいえない状況であるが、今後はこれらの講習会についても、内容の向

上を図って、参加者を増やす努力を行い、引き続き利用支援を行っていきたい。また、平成20年から運用が開始された学園新システムを活用し、図書館からの情報発信を積極的にを行い、図書館ホームページの充実と併せて、利用者へ必要とされる情報を的確に届けるよう努めた。これらがより一層有効に機能すれば、さらなる利用増につながるものと期待している。

3)図書館資料の充実

図書館の根幹は資料である。本学図書館では、シラバス記載の資料の収集はもちろんのこと、各学部のカリキュラムに添った資料収集に努めるほか、学生が教養を高め、人間性を深めることができるように資料の収集、充実にも努めてきた。平成21年度は次の基本方針の下、資料の充実を図り、図書・製本雑誌7,089冊、楽譜100冊、視聴覚資料等312点を受け入れた(短大研究費移分を含む)。

- 人間発達学部設置計画(報告記載の)資料収集の着実な履行
- 留学生への対応、就職活動本、資格関係図書等の充実
- 短大研究費移宮図書等の整理
- 事業計画にある電子ジャーナルについては、大幅な冊数の増加は図れなかったが、利用者がOPACを検索した時にすぐ気づくようにアイコンを表示するとともに、ホームページに電子ジャーナルのリンクを取り纏めた電子ジャーナルA to Z(タイトル順リスト)を公開し、利用の便を図った。

図書館の新着資料リスト『ソラリス』について、当初は月1回の発行予定であったが、研究費図書点検・整理作業などに追われ、発行が遅ってしまった。新規受入資料は、携帯電話などからも調べることができるが、『ソラリス』には一覧性という冊子ならではの長所があるので、今後は定期的に発行すると共に、利用者とのコミュニケーションの場ともなるよう内容を充実させたい。

8.学生支援に関する事項

1)学生生活・課外活動支援について

①経済的支援について

経済的な事由により学業を継続していくことが困難な学生の為に経済的支援を行うことによって学業を継続できるよう努めた。具体的には日本学生支援機構奨学金を柱に相愛学園奨学金など各種奨学金に対応した。特に家計が急変した為に、学業が継続困難な学生に対して日本学生支援機構の緊急・応急奨学金を申請するよう指導した。

②学生生活に関する支援

学生生活に関する相談は年々多様化・複雑化している。学生支援センターではより相談をはじめ日常的に様々な相談に対応し、学生がスムーズに学生生活に適應できるよう配慮した。一方、学生相談室では心の相談を中心に年間で延べ479件の相談があり、臨床心理士の資格を持ったカウンセラーが適切に対応した。また学生生活に関する支援として、アルバイト紹介や保護者会からの支援による学生教育研究災害傷害保険へ加入し入学の際に対処できるように努めた。大阪府辺以外からの入学生に対し、通学困難な学生へ下宿紹介をすることにより学生が安心して教育を受けられるよう支援した。近年増加傾向の一途を辿っている若者の犯罪やトラブルについて学生が巻き込まれないよう掲示等を通じて注意を促した。

③課外活動に関する支援

大学では、教職員が学生との人間的なふれあいを通じ、切磋琢磨しながら、道徳観、責任感などの倫理性とともに、忍耐力、意思伝達力、折衝力、決断力、適応力、行動力、協調性など社会が複雑化多様化する中において生き抜くための基本的な能力の涵養に努めていくことが求められている。そのためには、単に正課教育によって知識を教授するのみならず、正課外教育を実施し、学生の自主的な活動(正課外活動)を積極的に支援していく必要がある。本学では夏季に61名の学生・教職員が福井県おま町(相愛学園セミナーハウスにて2泊3日のリーダーキャンプを実施した。リーダーキャンプでは学生部長や学生主任、学生支援センター職員など教職員が学生のリーダーと寝食を共にしながら学生と意見交換をしながら学生の意見を共有し要望を直接聴くことによって彼らがより良い学生生活が送れるよう助言・指導に努めた。キャンパスタイムにおいては、学生の自主的な活動やピカピカ大作戦などに積極的に参加することによって学生は大学の構成員であることを認識させ、大学の活性化の一助を努めた。更に学生イベントで最大となる大学祭においては学生の大勢における帰属意識を高め、正課では得られない貴重な体験ができるよう「学生の自主性」に配慮しつつ助言・指導に努めた。
④学生の要望に対する回答実施について
学生会から年1回、定期的に学生の要望が提出されてい

るが、この要望書を纏めていく過程について必要な助言を行い、学生委員会(学生部長所管)で検討を加え、学生の意見を尊重しながら、常に学生会と意見交換をしている。今年度は予算上の理由により要望にこたえることはできなかったが、学生会と話し合いを重ねながら一定の理解を得たと考えている。

2)就職支援

①就職環境と就職状況について

一昨年の米国のリーマンショックに端を発した世界的な経済・金融危機により、日本経済も不透明な状況が続いており、現状も雇用環境が良化せず、新卒採用においても、厳しい状況が続いている。本学における求人は、今年度より人間発達学部(栄養士・保育士)卒業生が新たに輩出されるため福祉法人、食品・給食関連の企業の求人が増えたので、昨年度1,280件に対して今年度は1,429件と149件増であったが、やはり1社あたりの採用人数は減少しており、厳選採用である。就職状況については、今年度より就職事務システムを導入、学生に本学に届いた求人リアルタイムに学生ポータルに掲載し、積極的に大学に届いた求人を中心に活動させ、昨年度の就職率84%に対して、今年度の就職率は89%で5%増と健闘した。

②就職支援行事について

厳しい就職戦線を勝ち抜くためには早い段階から、しっかりとした就職意識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力、基礎学力が必要となるので、2年生よりキャリアデザイン講座、基礎学力講座を実施した。キャリアデザイン講座では自分の将来を考える事とビジネスマナーについて指導し、基礎学力養成講座では、主に言語能力分野と数学能力分野と政治・経済・社会についての講座を行った。3回生のキャリアプラン講座では、インターンシップ参加を目標として、ビジネス知識やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力強化をはかり、大学コンソーシアム大阪のインターンシップ(一般企業5名、保育所4名)に参加させた。また、講座参加者全員に横浜ビジネスグランプリ2010にも積極的に参加させ、そのうち2名がセミファイナルに進むことができた。3回生の就職試験対策行事として、自己分析、企業研究、筆記試験対策、面接試験対策の4つを重点に①就職ガイダンス②就職適性検査③グループ面接・グループディスカッション模擬演習④不定者体験発表会・懇談会⑤筆記試験対策講座⑥業界研究⑦個人面談を実施した。就職活動中の4回生には、志望業界、活動状況にも個人差があるため、個人指導を中心に対応し、面接練習、個人相談、履歴書・エントリーシート添削、本学に届いている求人紹介をきめ細やかに指導した。就職活動を成功する学生は、行事の出席率、学生支援センターの利用率も高く、今年度も行事と支援センターの活用の広報活動を強化した。従来の学内掲示、保護者宛のDMハガキや就職委員、担当助手に授業で行事の日程を連絡してもらう方法に加えて、就職システム学生ポータルサイトを利用して、各行事の1週間前に個々にメールで行事案内を配信した。

③企業訪問について

学生が円滑な就職活動をするためには、まず各企業、事業所とのパイプを築くことが大切である。特に採用実績企業には確実に求人をしていただき、就職実績をあげるよう就職実績企業を中心に、求人のお願いを、秋は内定実績企業へのお礼と追加求人をお願いの企業訪問をした。

9.学生募集に関する事項

1)広報用資料の作成

受験生、及び高等学校、予備校等の学外への広報資料として、5月中旬に2010年度版大学案内を作成し、入試に関する情報提供として、入試概要、前年度入試の結果等を掲載する入試ガイドを作成し、配布した。

2)入試説明会の実施

高等学校の教員や予備校、塾などの関係者を対象とした入試説明会を6月9日に開催し、大学の概要と各学部の説明、前年度の入試結果の報告、入試の変更点を中心とした次年度入試について等の説明を行った。入試説明会後には、高等学校の現状を伺う情報交換を行った。また、「教員による演奏会」にご参加いただいた。

3)オープンキャンパス

オープンキャンパスの参加者からの出席率が高いことから、新聞広告や雑誌、電車の中吊り広告、ちらし等を使ったオープンキャンパス開催の広報を行ったほか、高等学校の進路指導部や資料請求者へのDM発送、メールマガジンなどインターネットを使った情報提供を行うことにより、オープンキャンパスへの参加促進を図った。オープンキャンパスは、5月30日(三)、6月28日、7月26日、8月22日、8月23日の計5回の実施のほか、大学祭開催日(10月4日・25日)にも入

試相談コーナーを設け、学部・学科の説明や入試に関する相談、在学生と直接話をするなどにて、本学への進学を具現化できるように努めた。また、終了後はオープンキャンパス当日の様子を、ホームページにも掲載した他、参加者には礼状を交付し出願への動機づけを行った。

4)高等学校・予備校訪問、模擬授業への参加

教員を中心に、高等学校や予備校、塾を訪問(約500校)し、学部学科の説明や入試の詳細を周知し、また、高校での模擬授業や説明会へも積極的に参加(約60校)した。

5)音楽学部受験講習会

音楽学部を受験を考えている生徒に対して実施する受験講習会(8月と12月)への参加促進に、音楽雑誌への広告掲載等を行ったほか、高等学校や受験生に対して、講習会資料を送付した。

6)その他

本学のホームページを利用して、入試に関する情報を広く公開すると共に、資料請求者に対してDM、Eメール等を利用して、最新の情報を提供した。

Ⅲ.高等学校・中学校について

平成21年度高等学校・中学校における教育活動に関する主な取り組みについて報告する。

1.教育の質の向上を目指した取り組み

1)教科指導力の向上について

①研修体制

教師個々の教科指導力の向上が求められている。その為の方策として学内での教科研修、学外での外部教科研修、伝達講習会の開催、各自の自己研修等が挙げられたが、学校評価での研修項目の評価に見られるように十分とは言えなかった。転勤・異動がない私学における宿命ともいえるが、学外の動向を敏感に察知し、自らの教育活動を再検討する意志を学校としても、教師個々としても強く意識しなければ教育力の向上は達成できないものである。その意味で、本年度の教科研修体制において教科指導力の向上を次年度の課題とする。

②教科年間指導計画

年度当初に、教科別の年間指導計画の提出を求め、全教科の提出があった。昨年よりも、完成度は高くなったが、土曜日に授業を入れている割には、文部科学省が求めている標準指導時数に予定として不十分な教科がられた。授業時数の確保のためには、行事の曜日による偏りを是正することや、更なる行事の精選を行う必要がある。ただ、学園層との関係もあるので、次年度の学園層で改善を期すことにした。提出を受けた年間指導計画は、管理職で点検しフィードバックし、年度途中での進捗状況の把握に効果があった。

③教科指導部会の充実

教科指導力の向上のためには、自己研鑽と同時に教科指導部会の内容の充実が求められるが、講師の数も増加するので、次年度はますます教科指導部会での連携と内容の充実を期す。

2)学園層の見直しによる指導時数の増加について

年間指導計画で露見された教科指導時数の不足について、他私学のカリキュラムや公立学校の実践例を例示しながら、数度の職員会議を経て、行事の精選と見直し等を行った。まだ十分とは言えないが、学園層の見直しとなって大幅な改善が図られた。

3)カリキュラムの改善について

平成24・25年度完全実施される新指導要領については、学外の研修に多くの教員を派遣して研修が図られた。また、校内カリキュラム委員会を中心として、基礎・基本の定着・伸展を目指して5教科を充実し、また総合の時間に女子校としての情操教育を更に充実するよう、茶道・華道・礼儀作法の指導を実施し、生徒・保護者ともに好評であった。中学校での数学・英語の習熟度別指導の在り方や、高校の文系・理系のカリキュラムの見直し等今後の課題となった。

4)学力の向上について

学力の向上と学力不振生徒に対する取り組みが、放課後の補習や長期休業中の補習などで十分でないことが挙げられる。方策として朝の小テストや終礼テスト、毎日の補習など緊急の課題として取り組む。また、自習室が図書室以外にも職員室前の会議室に設定されるなど、生徒の利便に一定の効果があったが、時間の延長等が今後の課題である。学力診断テストや実力テストの事後の有効活用についても議論がなされ、進路指導部や特進チーム、学年との連携を深めて、より実効あるものとしたい。

5)教師力の向上について

今後ますます増加するであろう、不登校傾向のある生徒や発達障害が見受けられる生徒等、指導困難な生徒への対応が

急務であり、発達障害に関する研修を持つなど有用であった。今後も生徒理解への尺度の一つとしての研修効果を期待したい。次年度は、スクールカウンセラーの学校配置が実現できたので、メンタル面でのサポートが期待できる。また、保護者との対応、生徒指導、人権教育力の向上についても拡充が望まれる。

6)進学実績の向上について

①特進会議の定着

本校の中心生徒集団は進学コース在籍の生徒であるし、進学コースの生徒の学力保証と進路保証が大切であるの言うまでもない。一方、学外での評価のバロメーターとして、進学実績の向上が求められている。その意味でも特進クラスの学力の向上も同様急務である。特進チームの固定化と会議の充実が図られ、一定の効果があったが、更なる発展を期待したい。次年度は学習習慣の定着とモチベーションの向上を目指して勉強合宿も計画された。また、年次経過で個々の生徒の学力向上の変化を踏跡したが、多くの教師の目で生徒個々の動きを見つめることが出来るなど、有効であった。

②奨学生制度の見直し

奨学生制度を活用して成績優秀な生徒の確保と、進学実績の向上を図る取り組みは、費用対効果の面から、制度基準の再検討と内部規定の見直しが図られた。次年度から、進学クラスへの奨学生の導入が図られたが、今後の底上げが期待される。

7)進路支援について

中学校・高等学校・大学校を併設する相愛学園として、併設学校への内部進学等の規定は、全人教育を期す本校としては望ましいことである。他方、内部進学制度が、進路実績を上げる面や学力向上の面での障壁となっていないか検討する必要がある。また、中学校における発達段階を見通した進路学習の希薄さが指摘されている。今年度より進路指導部の活動が強化されたので、次年度以降の深まりを期待したい。高大連携の項でも言及するが、キャリア教育の充実に資するよう龍谷大学との連携強化による進路学習の進展を期待したい。

8)生徒の生活支援について

①宗門校としての取り組み

仏教精神に基づく教育に取り組んでいる我が校として、朝夕の礼拝、各種宗教行事を通して豊かな人間性を育てていると確信している。今年度は学校評価アンケートの結果からみると、教師・保護者の意識と生徒との宗教行事に対する認識の違いにおいて少しの改善をみる、また次年度は習慣化によるマンレリや形態化を見直ししていく。

②生活規範意識の確立と生徒指導体制

私学として、生徒指導体制を明確にし、素直で明るく清潔な生徒を育成することが、生徒自身と保護者の願いであるし、社会一般の相愛に対する評価を高める要因の1つであると考えられる。その意味で、毎日の生徒指導への取り組みと基本的な生活規範意識の向上が次年度更に求められる。また、時代に即応した懲罰の在り方が、他校の例も参照し、今年度の検討された提案をもとにして改善を図る。

9)行事・特別活動について

①生徒会活動や各種行事について

生徒の本務は学習することであるし、学力の向上が第一であるのは言うまでもない。他方、生徒会活動や特別活動・クラブ活動などの活動の強化と充実を図ることは、生徒の学校生活への満足度を高め、帰属意識を高めるものである。今年度は生徒会顧問と執行部の意欲的な取り組みがなされたが、今後も組織的・計画的に学校活性化の一助としての頑張りを期待したい。

②クラブ活動について

新体操部などの一部の部活動の活躍により、学校の名を高める一助となっているが、クラブへの所属が3割を切り、学校全体として活力が低下している。次年度からクラブ活性化の一助として、運動クラブ奨学生の実現を見たが、部活動への参加率を高め活動を活発にしていきたい。

10)保護者との連携の強化について

より良い学校になる為には、保護者との連携を密にし、意思の疎通を図ることが求められるが、学校からの情報の提供が少ないのご意見や、保護者対象の授業参観等の参加率が低いのが課題であった。今年度は、昨年の反省に立ちHPOのリニューアル、保護者向けの情報伝達手段としてのメルボの導入、学年便りの定期的発行、「相愛の教育」の創刊などの施策により大きく改善をみた。今後も学校の現状を把握してもらい協力体制をお願いする上でも、更なる情報の迅速・的確な提供を図る。

11)各種資格の取得について

各種資格取得支援について、英検への取り組みの強化と漢検の導入により学校評価結果が大きく改善した。今後も更な

る取り組みを強化と情報の提供を行い、資格支援の充実を図りたい。

2.入試業務を含む生徒募集・広報活動事業の取り組み

1)塾との連携

塾長対象の入試説明会を本年度も昨年同様学内で実施した。また、説明会の前に中3生徒の礼拝の様子と授業公開も行ったが宗門校である本校をアピールする意味で効果的であったので、次年度も検討を加えて実施する。今年度は学校生活全般として、学校生活・教務関係・進路関係をまとめて説明したが、時間節減の効果もあり好評であった。また、塾訪問担当地域の明確化と、本年度は1名増員して4名の担当教員を配置したが、効果的であった。

2)中学校との連携

従来、本校の応募状況は、各府県・地域が広範囲に広がっており、担当2名では全地域をカバーするには困難な状況である。そこで、地元は大阪市であるとの認識のもと特化も図りたい。近隣の学校・保護者からの要望が強かった自転車通学について、交通安全に注意を払いながら実施できた。また、各中学校により入試成績で大きな開きがあることは事実であり、成績上位校について、何らかのアドバンテージを考えることも視野に入れて次年度は臨みたい。

3)入試説明会・体験学習

本年度は年度当初から日時を確定して、3回の個別相談会を実施したが、好評でもあり、効果も上がったので、次年度も積極的に取り組みたい。また、体験学習と乙女コンサートを別開催にしたことは有効であった。

4)コースの再編成

英語コミュニケーションコースの応募が近年低迷し、コースの改編が検討されていたが、平成22年度から募集停止とした。停止によるマイナスを何とかカバーできるよう、1つの方策として従来の「U講座」を発展して「Soai教養講座」とし、多様な講座を設け次年度から実施する予定である。

3.高・大連携事業の取り組み

併設校である相愛大学との連携については、大学進学説明会などの協力は図られたが、教員間の交流による連携強化が望まれる。龍谷大学との連携については昨年春に教育連携校の調任後、大きな進展を見せ、進路指導部の動きと連動しキャリア教育の進展もなっており次年度具現化する予定である。

4.コンサートの実施について

音楽科を擁している事が相愛の伝統であり、世間へのアピールの手段ともなっている。ただ、学校内外での音楽科関係の発表会がなされているが、学内の他コースの生徒達も触れ合うことができる環境整備が望まれる。

Ⅳ.広報活動に関する事項

本学では、広報担当部署が4つ(学園広報全般(総務課)、学生募集(大学/入試課、中・高校/高専事務室)、ホームページ(管財課))あり、それぞれ役割分担し広報を展開しているが、その役割分担が本学の実状や将来計画を広く知らせつつ、本学の認知度、ブランドイメージを高めるために、何をどのように誰に知らせるべきかをそれぞれ再検討し、その枠組みを超え相互に理解・協力し、広報活動を行う必要がある。2009年度は第一歩として広報担当会議を定期的に開催し連携の強化を図った。

・各部門のidentity(個性・特長)を明確にするとともに、そこで完結することなくつながりのある手法・手段で、学生・生徒募集力の強化に繋がる広報活動を展開するとともに、各部門の単独の力を最大限に発揮し、興行力のある広報を展開する。 ・広報誌「SOAI Familiar」を年3回(新入生歓迎号、第15号4月28日、第16号(A4判冊子ヘリニューアル)12月10日)発行し在学生・保護者・同窓生等を対象に配布するとともに、広く社会一般にも配布し学園の実状をアピールする。学内報「當相敬愛」を年4回(5/14、7/17、11/10、2/26)発行し、内容の充実を図り、教・職員がより一体となりこの難局に立ち向かうよう、危機意識の共有を図るとともに、学内報のペーパーレス化実現をめざす。

平成21年度決算

平成21年度決算が、平成22年5月25日(火)の理事会・評議員会において承認されました。資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表について報告します。

- 資金収支計算書は当該会計年度の諸活動に対応するすべての収支の内容、並びに支払資金の収支の期末を明らかにすることが目的の計算書です。平成21年度の予算(補正予算)額と決算額とを対比する形式で表しています。
- 消費収支計算書は当該会計年度における消費収支の均衡状態とその内容を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示す、いわば企業会計の損益計算書に当たるものです。

- 貸借対照表は年度末の財政状態を表すもので、資産、負債、正味財産(基本金、消費収支差額等)の状態を表示しています。資産の部、負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部を分け、資産、負債基本金又は消費収支差額の科目ごとに、当該年度末の額を前年度末の額と対比しており、昨年度からの変動をみることができます。

科目	収入の部		
	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,776,461	2,776,916	△455
手数料収入	23,895	24,061	△166
寄附金収入	38,582	38,581	1
補助金収入	460,253	460,252	1
国庫補助金	216,611	216,611	0
地方公共団体補助金	243,642	243,641	1
資産運用収入	12,596	29,626	△17,030
資産売却収入	100	100	0
事業収入	124,097	154,613	△30,516
雑収入	335,210	338,964	△3,754
前受金収入	319,470	324,950	△5,480
その他の収入	559,434	556,201	3,233
資金収入調整勘定	△740,545	△765,658	25,113
前年度繰越支払資金	1,703,688	1,703,688	
収入の部合計	5,613,241	5,642,294	△29,053
科目	支出の部		
科目	予算	決算	差異
人件費支出	3,066,056	3,086,729	△20,673
教育研究経費支出	584,471	577,156	7,315
管理経費支出	195,776	190,586	5,190
施設関係支出	119,824	119,820	4
設備関係支出	79,033	78,900	133
資産運用支出	174,520	174,581	△61
その他の支出	453,100	464,236	△11,136
資金支出調整勘定	△679,386	△688,228	8,842
次年度繰越支払資金	1,619,847	1,638,514	△18,667
支出の部合計	5,613,241	5,642,294	△29,053

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

・ホームページは、本学の情報をリアルタイムで発信する手段として必要不可欠なメディアである。高等学校中学校のホームページでは、日々展開されていく教育活動をより明確にわかりやすく公開することを目的として2009年12月1日に全面リニューアルを行った。最新のトピックス更新システムを導入したことで情報のリアルタイム化を実現している。また相愛大学ホームページにおいては情報システム運用委員会を毎月開催している。2009年4月1日の部分リニューアルを実施した際、「Voice of SOAI」と題して公式ブログを構築した。立上げ当初に比べ2010年3月の時点でのアクセス数は倍増し一日平均200アクセスを数えている。さらに2011年度入試に向け2010年6月に受験生向けページの全面リニューアルを予定しており、新設計にて展開すべく現在構築を進めている。管理運用面でも、最新の情報を担当部署にいち早く集約させるなどの人的ネットワークをより強固に確立させるほか、学園による統合管理を実施しているところで統一性のある適切な情報発信を展開する。

Ⅵ.各学校の施設整備計画

施設設備整備計画については施設老朽化に伴う所要の更新、学園全体の施設設備整備計画を策定し、資産の適正な管理を行っている。平成21年度に実施したのは南港学舎の建物の空調更新工事及び本町学舎の教室と改修工事、及びその他経常的修繕など以下のとおりである。

1.南港学舎での主な修繕工事

5号館食品栄養研究室扉増設工事、5・6号館の空調設備更新工事
2.本町学舎での主な修繕工事
6号館6F音楽室防音壁の改修工事、7号館2F・E25教室と室への改修工事、7号館2F・E25教室電気・空調設備改修工事、5・6号館トイレ改修工事、本町学舎の生徒落下防止用手摺格子枠取り付け工事

以上

科目	消費収支の部		
	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,776,461	2,776,916	△455
手数料	23,895	24,061	△166
寄附金	38,882	39,795	△913
補助金	460,253	460,252	1
国庫補助金	216,611	216,611	0
地方公共団体補助金	243,642	243,641	1
資産運用収入	12,596	29,626	△17,030
資産売却差額	100	100	0
事業収入	124,097	154,613	△30,516
雑収入	335,210	338,964	△3,754
掃廃収入合計	3,771,494	3,824,327	△52,833
基本金組入額合計	△99,354	0	△99,354
消費収支の部合計	3,672,140	3,824,327	△152,187
科目	消費支出の部		
科目	決算	差異	0
人件費	2,879,162	2,900,334	△21,172
教育研究経費	955,869	948,657	7,212
管理経費	215,715	210,524	5,191
資産処分差額	0	4,122	△4,122
徴収不能額	34,923	37,598	△2,675
徴収不能引当繰入額	0	9,488	△9,488
消費支出の部合計	4,085,669	4,110,723	△25,054

当年度消費支出超過額	413,529	286,396	
前年度繰越消費支出超過額	8,381,958	8,381,958	
基本金取崩額	0	44,237	
翌年度繰越消費支出超過額	8,795,487	8,624,117	

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●